

食教育

食に関する指導の充実をめざして

～給食時間を中心に～

1. 設定理由

教科等の指導にかかわるだけでなく、給食の時間の食に関する指導へも計画的にかかわることで、子ども達の食に対する知識が深められ、意識や行動の変容がみられるのではないかと考える。さらに、子ども達の健康に関する問題点を解決するために、意図的に学校給食を「生きた教材」として活用すれば、望ましい食習慣への意識を高められるのではないかと考え本主題を設定した。

2. 研究仮説

- (1) 給食の時間を活用した食に関する指導を6つの指導目標や発達段階別に整理し、共通の教材を作成することにより、計画的に指導がしやすくなり子ども達の食に関する実践力が高まるであろう。
- (2) 食に関する指導と給食の献立を関連づけて継続的に指導を行うことで、子ども達の食に関する理解が深まり望ましい食習慣への意識が高まるであろう。

3. 研究内容

- (1) 給食の時間における食に関する指導計画・指導案の作成
- (2) 計画に基づいた実践及び調査の分析
- (3) 給食の時間を活用した食に関する指導
- (4) 授業における食に関する指導の実践及び調査の分析

4. 結論

- 栄養教諭・学校栄養職員が共通の指導案や教材を作成したことで、指導内容の統一が図られるとともに、計画的な指導ができた。
- 給食の時間を活用した食に関する指導を各学校で実践したことにより、子ども達のかむことに対する意識を実践力につなげることができた。
- 授業での食に関する指導を給食の献立と関連づけ指導することで、かむことの大切さやむし歯にならないように気をつける意識を高めることができた。

【今後の課題】

- 給食の時間の食に関する指導を行うために、学校における食に関する全体計画や年間計画などに位置づけ実践できるように働きかける必要がある。
- 給食の時間に毎日出向くことが難しいので、子ども達の意識を高める給食指導や声かけを担当や関係する教職員にしてもらえるように働きかけていく必要がある。